

第3回バイオリソースセンター情報検討委員会議事要旨

1. 日 時 平成17年 1月11日(火) 14:30~17:20
2. 場 所 新東京ビル 7階 理化学研究所 東京事務所 大会議室
3. 出席者
(委員等)
山崎 由紀子 委員長、伊藤 剛、菊池 俊一、中村 保一、松本 耕三、宮下 信泉
各委員
文部科学省 佐伯課長、村松係長、大畑調査員
(理研側)
森脇センター長、小幡リソース基盤開発部長、深海情報解析技術室長、鶴川客員主管
研究員、岩瀬研究員、太田研究員、富田研究推進部長、山田企画課長 他
4. 議 題
 - (1) 前回議事の確認
 - (2) 情報解析技術室の事業実績の概要説明
 - (3) 情報解析技術室の事業の今後の方針について
5. 主な内容
 - (1) 前回議事の確認
第2回議事録の配布と議事要旨を各委員に配布し、内容について確認を行ったが、特に委員からの指摘等はなく承認された。
 - (2) バイオリソースセンターの概要説明
バイオリソースセンターに16年7月1日をもって和光にあるJCMが微生物材料開発室として移管され、動物個体から微生物とそれに係わる情報まで取り扱うセンターとなった。また、本年度よりリソースに係わる研修事業をスタートさせ、環境ストレスを研究するためのリソース整備を開始した。本センターの目標として細胞も含め他のリソースについて2010年までに世界最高水準のリソースを整備することを目標としている。また、OECDのバイオリソース・ネットワークの構築、マウスでインターナショナル・フェデレーション・マウス・ネットワークの構築等にも参画し世界的にも当センターは認知されつつある。当センターの業務活動の評価と云う点では、本委員会を含めてCSTP、独立行政法人評価委員会、アドバイザー・カウンシル等の委員会があるが、CSTPの評価では2番目に高いA評価を得ており、独立行政法人委員会ではバイオリソースについて重要な担い手であって欲しいという評価、またアドバイザー・カウンシルでは、財政基盤に注視して欲しいと云うコメントがあった。

(3) 情報解析技術室の事業実績の概要説明

リソースの収集・維持・提供、リソースの利用促進、リソース情報の研究開発の三点について事業を進めている。特にリソースの利用促進という点について以下のとおりリソース情報の充実を図った。実験動物では、絞り込み検索を可能とし、リソースに付随する情報の拡充を図り画像（写真）での情報提供も行い、ジャクソンのデータベースにリンクを張った。実験植物では、ユーザーの登録システムを構築し研究室のリーダー（P I）に限って登録できるようにし、S A S S C（仙台・アラビドプシス・シード・ストック・センター）のデータ移植を終えた。細胞材料では、日本人由来不死化細胞（H E V）、研究用ヒト臍帯血幹細胞（H C B）、研究用ヒト間葉系幹細胞（H M S）が加わり、提供システムのデータベースのテーブルを作成した。遺伝子材料では、遺伝子の特性情報をシステムに導入し、組換えウイルスとS T Sマーカーの検索を可能とした。

(4) 情報解析技術室の今後の方針について

- ①理研の他のセンターで持っているマウスcDNA等膨大なデータは、BRCのホームページから入っていけるようにした方が良い。世界のデータベースに飛べるのも良いが、理研のデータベースに飛べなくては仕方のないのでは。
- ②理研から外部の世界にリンクして頂くことも良いのだが、理研内部で持っているマウスcDNA等の膨大なデータとジョイントして頂きたい。上記に付随して、違う種のアンサンプルのデータベースも見られると非常に使い易いものになる。
- ③理研BRCは、現在成長期であり、このような時に、資金的問題もあるが、一気に世界に理研BRCのデータベースを知らしめる好機とすべきだ。思い切った予算を投じて、日本のトップクラスのデータベースを創るべきでは。
- ④理研BRCのホームページには、マウス、植物、DNA、細胞の4つの入り口があるが、MSMマウスのBACクローンの情報はDNAからしか入ることができない。マウスの利用者に対してマウスの入り口からBACクローンに到達する仕組み作ると利用者も増えると思われる。
- ⑤理研BRCで扱っている情報について、アクセスできる人の制限を施す必要がある。サーバーの運用にあたっては知識のある人を配置し、内部について制限をかける必要があるのでは。複数の検索システムを統合したシステムの場合は個別認証システムの一元化をどう実現するかが懸案となる。
- ⑥他のサイトのデータベースを参照するシステムは、時々データベースやネットワークの状態を的確に把握して、他にリンクするような機能が必要である。
- ⑦理研BRCと和光とのデータ回線の容量で、現状100メガだが、画像等のデータが今後多くなると思われ早急に光回線に変えるべきでは。また、使用回

線の問題だが、専用線に拘らず近隣のプロバイダーを通した方が経費的にも安くなる場合もある。セキュリティーの問題もVPNの技術もあるので問題はないと思われる。

- ⑧理研BRCのホームページで情報を提供する際に、ユーザーのニーズを吸い上げるような逆の仕組みを作ってはどうか。
- ⑨検索エンジンで、ユーザーに対して使い易いシステムの構築、例えばがんの研究に使えるリソースからの検索とか、検索エンジンを充実させることが必要。
- ⑩情報セキュリティーについて、理研BRCでセキュリティーポリシーの基本的なルールを作ることが必要。
- ⑪提供に際して、発注者の安全情報の担保をどのように確保すべきかを確実に対応することが必要。

以 上